

2022年7月

株主各位

株式会社アーレスティ

第101回定時株主総会の質疑応答要旨について

2022年6月28日(火)開催の第101回定時株主総会にて株主様からご質問を頂きましたので、その質疑応答要旨をお知らせいたします。

(質問1) 自動車産業の大変革期における投資のあり方について

(回答1)

電動化に伴い我々のマーケットがどう変わるかがベースとなります。パワートレインはモーターに変わり、他に減速機、インバータ、コンバータ、PCUのような電気制御系部品等となります。これら部品は既存の鋳造設備が流用でき、加工設備も既存のエンジン・ミッション部品の加工設備で使えるものがそれなりにありますので、これまでの投資で賄えるゾーンとなります。

一方で、超大型鋳造機を使つての車体の一体成形に関しては大きな投資が必要になりますが、生産する場所、生産品の運搬などの制約があり、主流となるかは不透明です。バッテリーケースに関しては、バッテリーの構造がどうなっていくか、大きさがどうなっていくかを注視しています。超大型鋳造機のゾーンがどうなっていくか、投資に対するリターンを慎重に見極めていきます。

3つ目のゾーンは超大型鋳造機が必要でないサイズの車体系部品です。このゾーンは成長が期待でき、また既存の鋳造機を活用できます。車体系が増えてきたら投資がある程度必要になりますが、大規模な投資ではなく、段階的な投資になると考えています。

(質問2) 現状の株価水準について

(回答2)

株主の皆様にはご迷惑、ご心配をお掛けして、大変申し訳なく思っております。株価を看過するつもりは全くなく、経営に対する市場の評価と受け止めております。2018年度より段階的に業績が悪くなってきて、特に20、21年度にコロナの影響があったとはいえ大きな損失を出したことが、株価に反映されており、当然のことと思っております。生産性の改善、リーン体制を更に進め、今期の黒字化、22-24経営計画を達成することが市場の評価を上げるための最優先課題と捉えて進めてまいります。

(質問3) 自社株買いについて

(回答3)

自社株買いも株主還元の1つの選択肢として考えております。ただ、今は厚めに手元資金をもつべき時期と考えています。ステークホルダー全体、PBRが低迷していること、プライム市場維持への課題も併せて考慮しながら検討してまいります。

(質問4) 大規模な資金需要がなければ非上場化もあると思うが如何か

(回答4)

非上場化も1つの考え方としてあると思いますが、従業員はもとより、顧客、取引先からの信頼の礎の1つにもなっており、人材採用面においても上場していることが有利であると考えています。また、将来市場からの資金調達もないとは言えず、拙速な非上場化はすべきではないと考えております。

(質問5) 電動化の進展状況について

(回答5)

ここ1年では電動化しかないという雰囲気非常に強く感じておりますが、地域ごとの充電インフラ整備状況等で電動化がどこまで進むかは、疑問を感じることもあります。

早い遅いはありますが最終的には電動化になっていきます。内燃機関向け部品から電動化部品への積極的な切り替えの時期をどうするか、見極める必要があると考えております。

(質問6) 非自動車向け市場について

(回答6)

自動車ほど1台当たりでアルミダイカストの使用量が多いものは他にありません。アルミダイカストの市場として、自動車のマーケットはとて大きく、主体は自動車マーケットに特化することが私どもの経営に効率的であるし、世の中への貢献度としても高いと考えて進めております。

以上